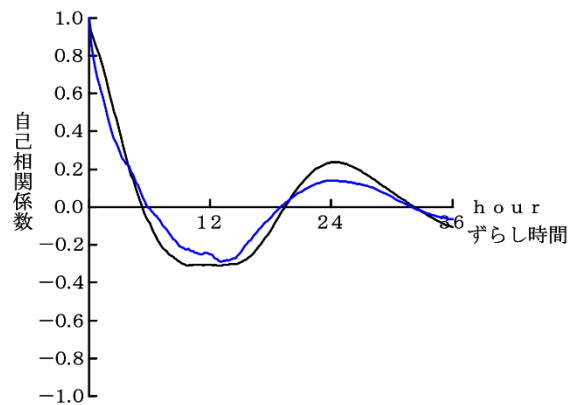
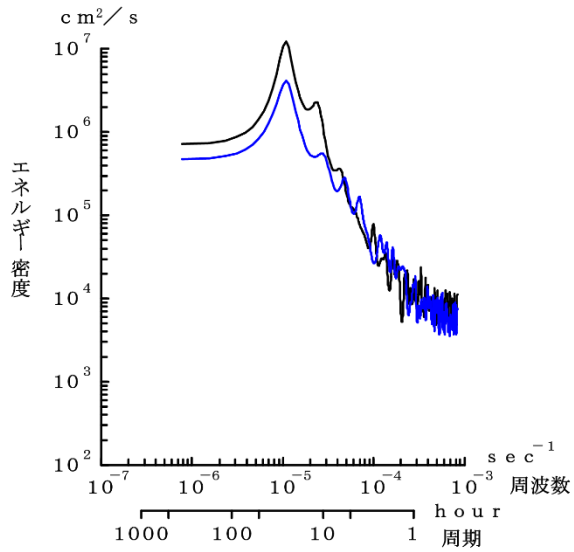


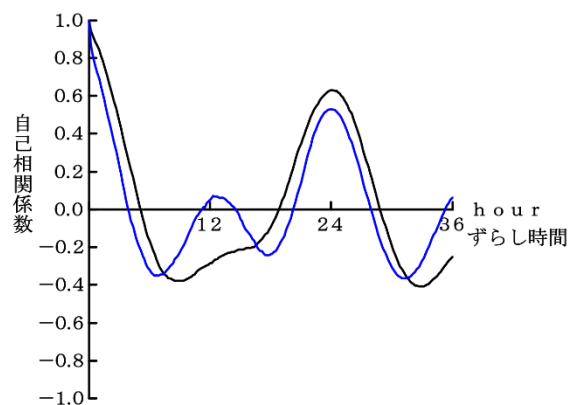
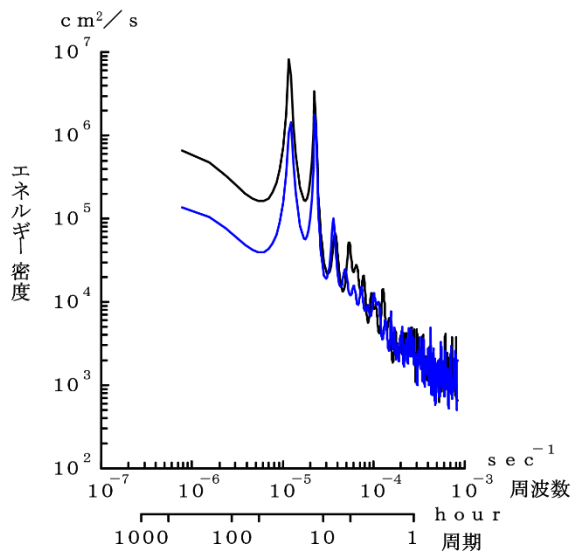
St. 1

海面下1.0 m

解析期間：令和 2年 8月13日12時00分
～ 8月28日12時00分



海底上2.0 m



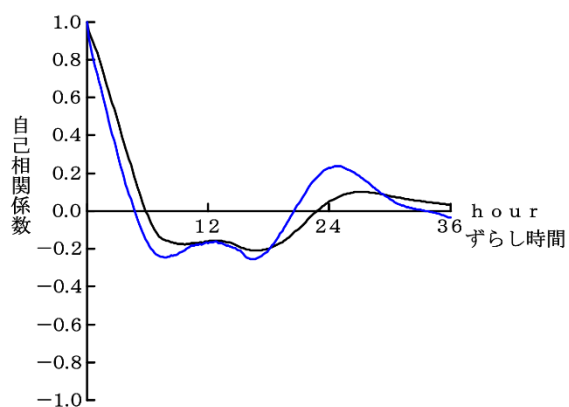
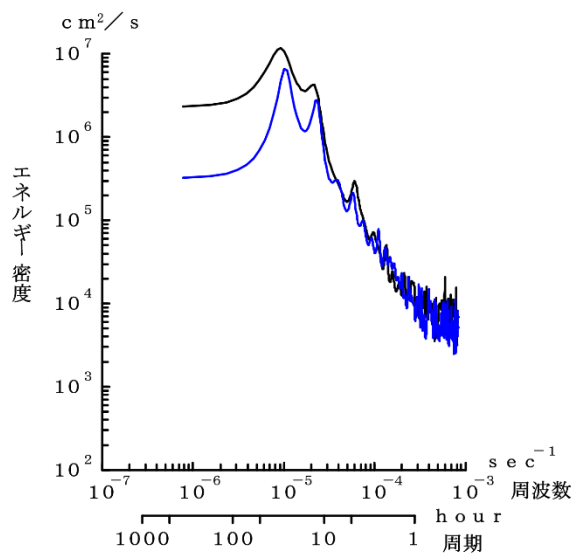
凡 例	
—	: 北方成分
—	: 東方成分

図 5.3.6(1) パワースペクトル及び自己相関係数（地点 No.1）

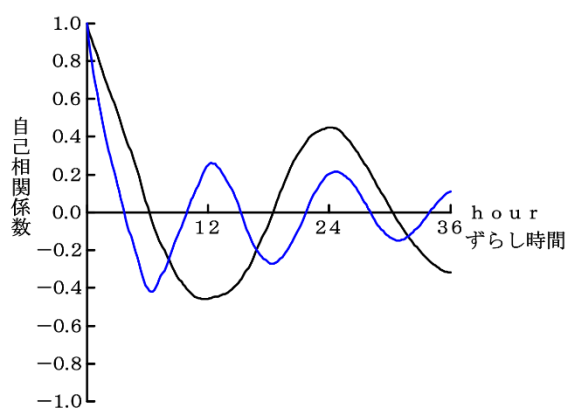
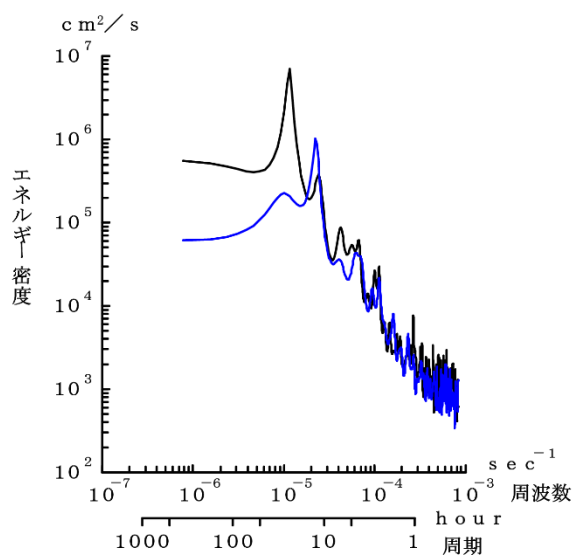
St. 2

海面下1.0 m

解析期間：令和 2年 8月13日12時00分
～ 8月28日12時00分



海底上2.0 m



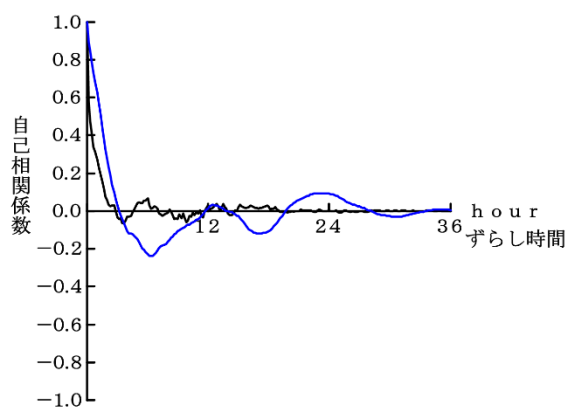
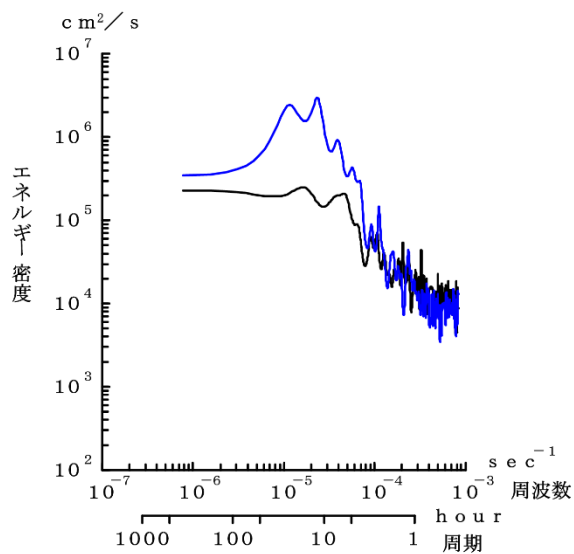
凡 例	
—	: 北方成分
—	: 東方成分

図 5.3.6(2) パワースペクトル及び自己相関係数 (地点 No. 2)

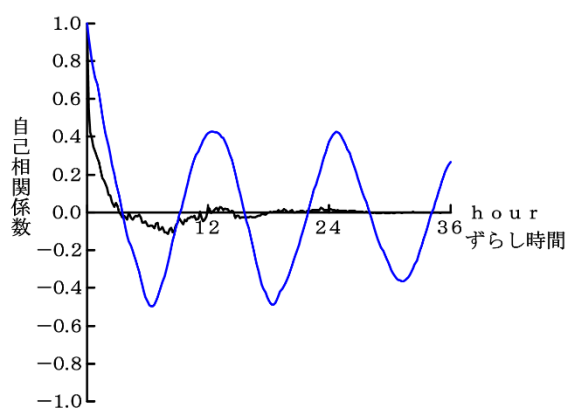
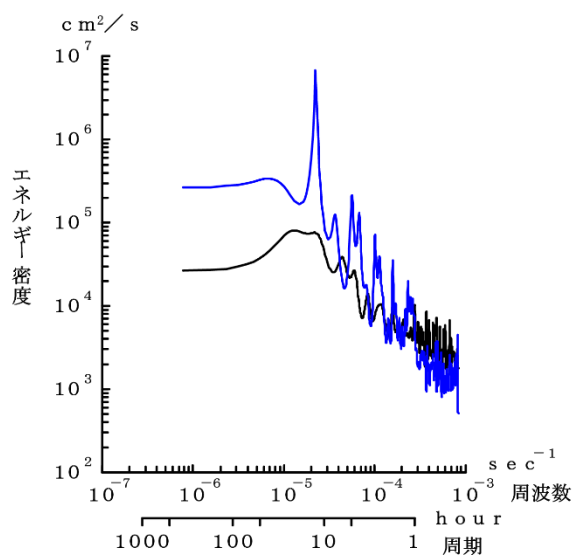
St. 3

海面下1.0 m

解析期間：令和 2年 8月13日12時00分
～ 8月28日12時00分



海底上2.0 m



凡 例	
—	: 北方成分
—	: 東方成分

図 5.3.6(3) パワースペクトル及び自己相関係数 (地点 No. 3)

表 5.3.4 主要 4 分潮の調和解析結果

解析期間：令和 2 年 8 月 13 日 12:00 ～ 8 月 28 日 12:00

地点	層	K ₁ 分潮						O ₁ 分潮					
		長軸			短軸			長軸			短軸		
		方向 (°)	流速 (cm/s)	遅角 (°)	方向 (°)	流速 (cm/s)	遅角 (°)	方向 (°)	流速 (cm/s)	遅角 (°)	方向 (°)	流速 (cm/s)	遅角 (°)
No. 1	海面下 1m	330	10.1	312.3	60	0.0	222.3	323.4	5.9	147	53.4	1.4	57.0
	海底上 2m	337.6	5.2	140.9	67.6	0.5	230.9	333.2	1.1	225.5	63.2	0.2	135.5
No. 2	海面下 1m	16.4	8.7	20.1	106.4	6.3	110.1	332.8	5.4	153.7	62.8	1.7	243.7
	海底上 2m	0.5	4.7	177.3	90.5	0.9	267.3	332.8	0.9	210.9	62.8	0.0	300.9
No. 3	海面下 1m	285.6	4.4	224.4	15.6	0.5	134.4	282.4	0.7	156.6	12.4	0.3	246.6
	海底上 2m	296.4	1.5	45.2	26.4	0.3	135.2	270.8	1.2	226.5	0.8	0.1	136.5

地点	層	M ₂ 分潮						S ₂ 分潮					
		長軸			短軸			長軸			短軸		
		方向 (°)	流速 (cm/s)	遅角 (°)	方向 (°)	流速 (cm/s)	遅角 (°)	方向 (°)	流速 (cm/s)	遅角 (°)	方向 (°)	流速 (cm/s)	遅角 (°)
No. 1	海面下 1m	328.5	4.5	234.4	58.5	0.0	324.4	43.5	1.1	107.5	133.5	0.2	197.5
	海底上 2m	325.2	3.2	253.3	55.2	0.2	343.3	322.7	1.3	225.8	52.7	0.0	135.8
No. 2	海面下 1m	36.6	6.0	135.6	126.6	2.2	45.6	68.6	3.0	130.6	158.6	0.0	40.6
	海底上 2m	277.2	2.4	271.1	7.2	0.9	181.1	3.4	1.6	185.6	93.4	0.8	95.6
No. 3	海面下 1m	282	2.7	197.5	12.0	0.3	107.5	274	4.6	237.7	4.0	0.3	327.7
	海底上 2m	276.6	3.6	295.9	6.6	0.4	205.9	287	1.6	292.7	17.0	0.3	202.7

注：潮汐は様々な周期をもって運行する天体（月や太陽など）によって起こる海面の上下変動であり、いくつかの単元周期運動の和としてあらわすことができる。この単元周期運動の潮汐を分潮という。主要な分潮としては、M₂（主太陰半日周潮）、S₂（主太陽半日周潮）、K₁（日月合成日周潮）、O₁（主太陰日周潮）の主要 4 分潮がある。

出典：「環境アセスメントの技術」（社団法人環境情報科学センター，1999 年）

用語集（気象庁ホームページ <https://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/db/tide/knowledge/tide/yougo.html>、令和 3 年 6 月閲覧）

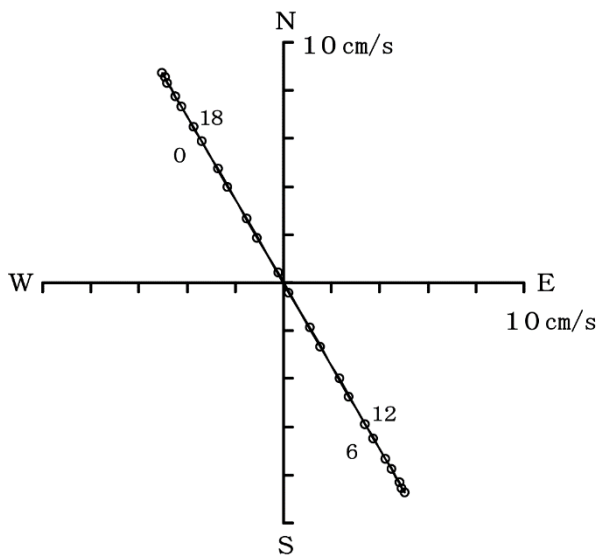
方向：各分潮の長軸、短軸及び平均流の方向で、北方軸（真北）から時計回りの方向の角度（単位：度）

流速：各分潮の最大（長軸）流速、最小（短軸）流速及び平均流の流速（単位：cm/s）

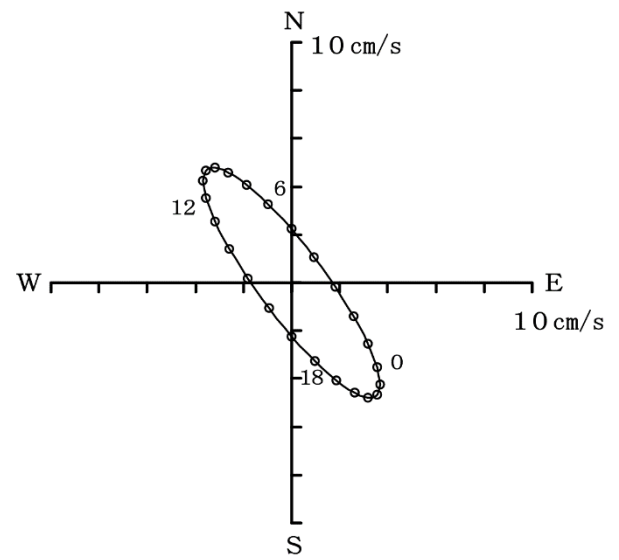
遅角：天体が観測地点の真上を通過してから最大流速が現れるまでの時間を角度表示したもの。

流速の「0.0」は 0.1cm/s 未満を示す。

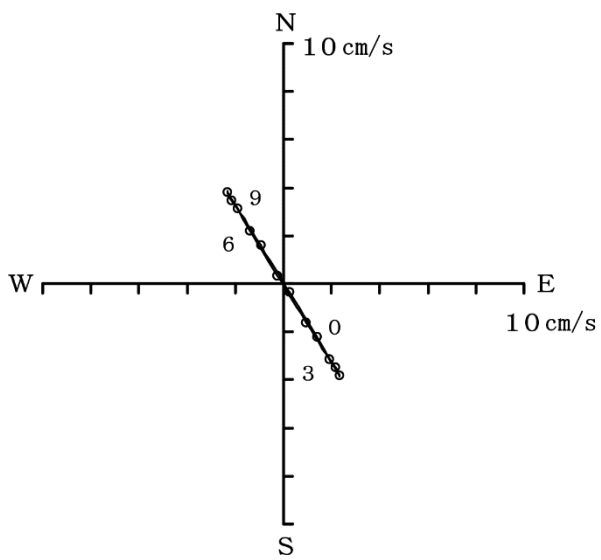
K_1



O_1



M_2



S_2

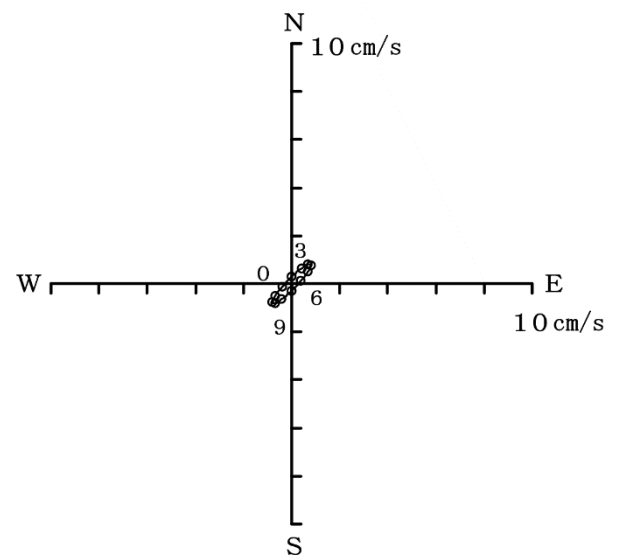
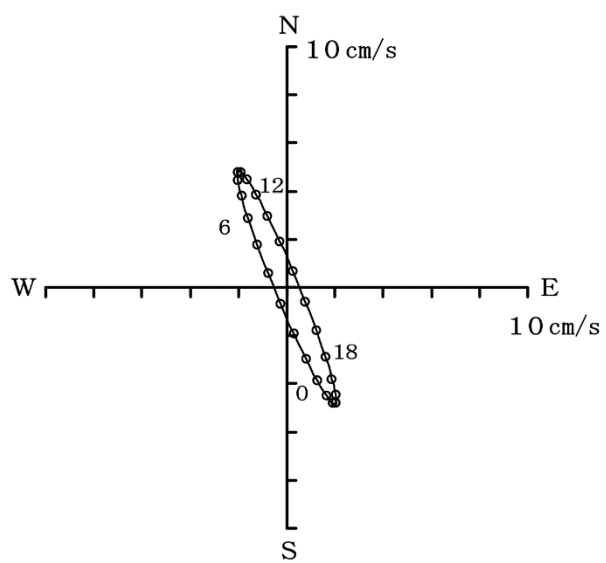
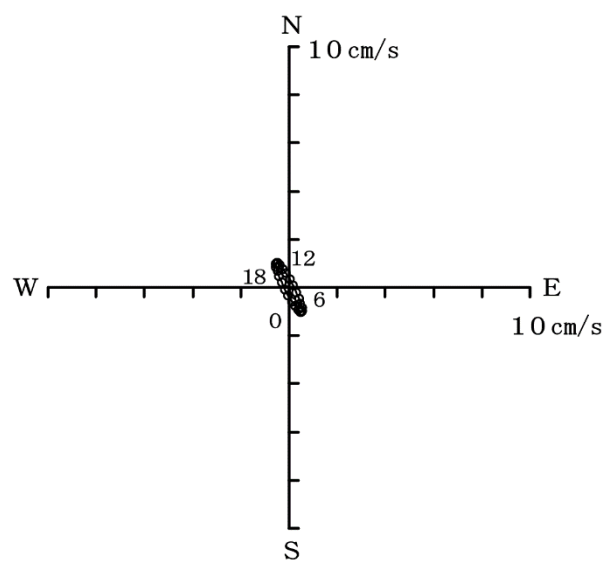


図 5.3.7(1) 主要 4 分潮の潮流楕円 (地点 No. 1)

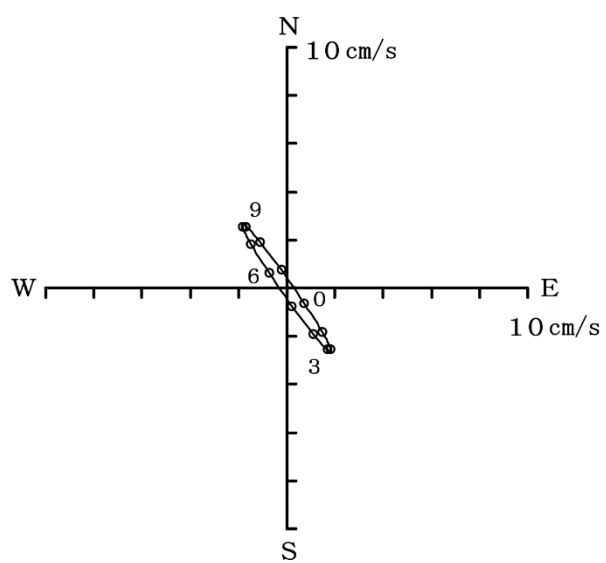
K_1



O_1



M_2



S_2

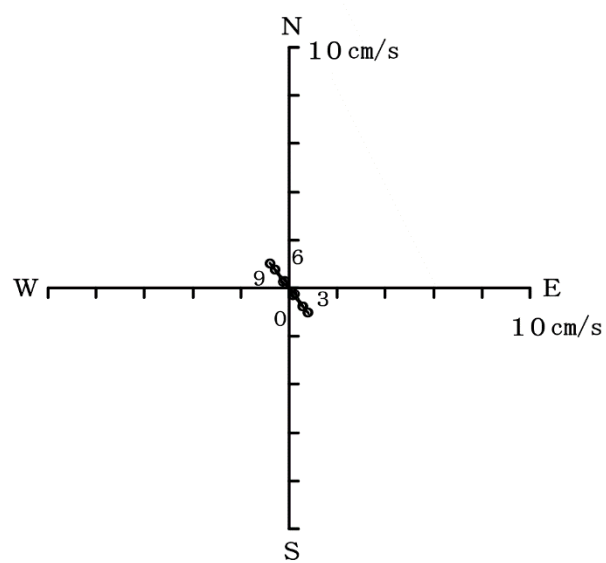
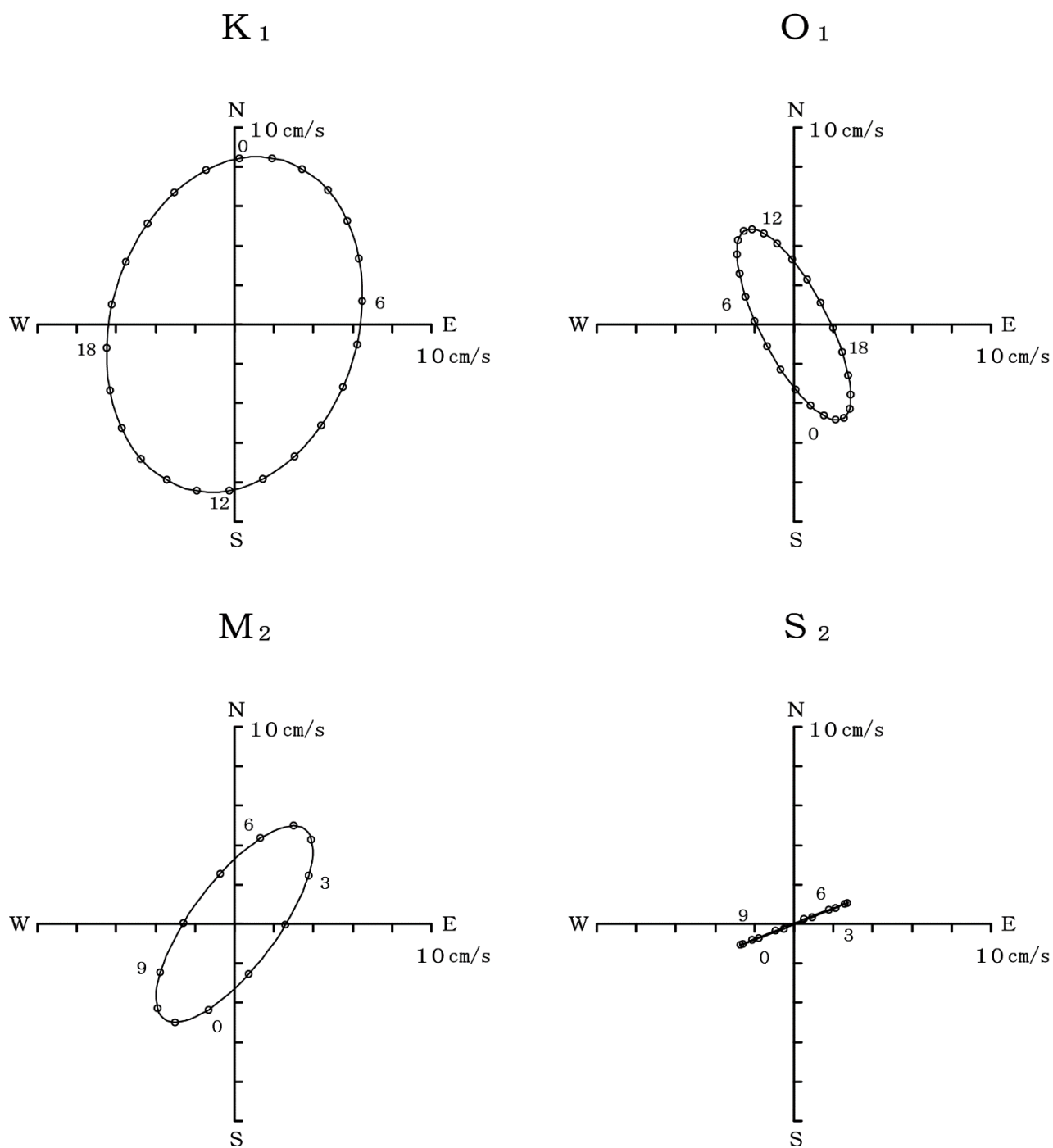


図 5.3.7(2) 主要 4 分潮の潮流橢円 (地点 No. 2)



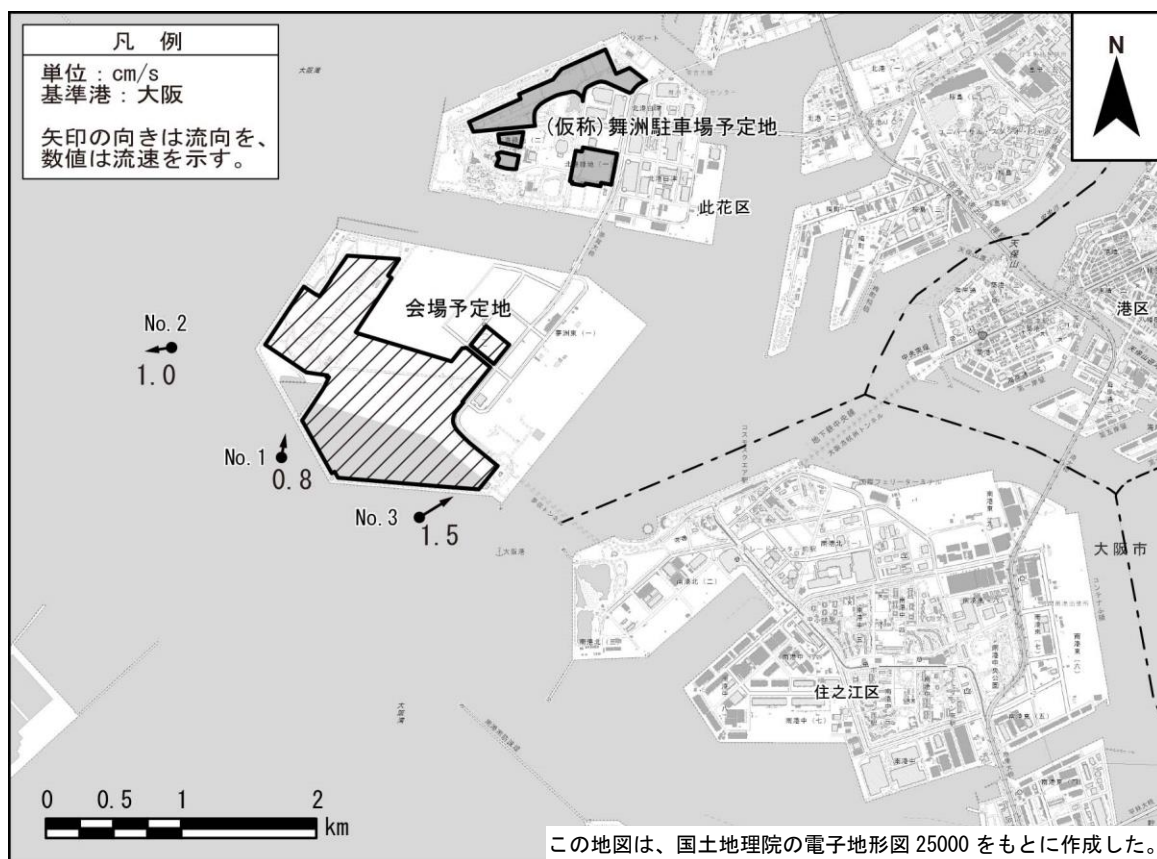
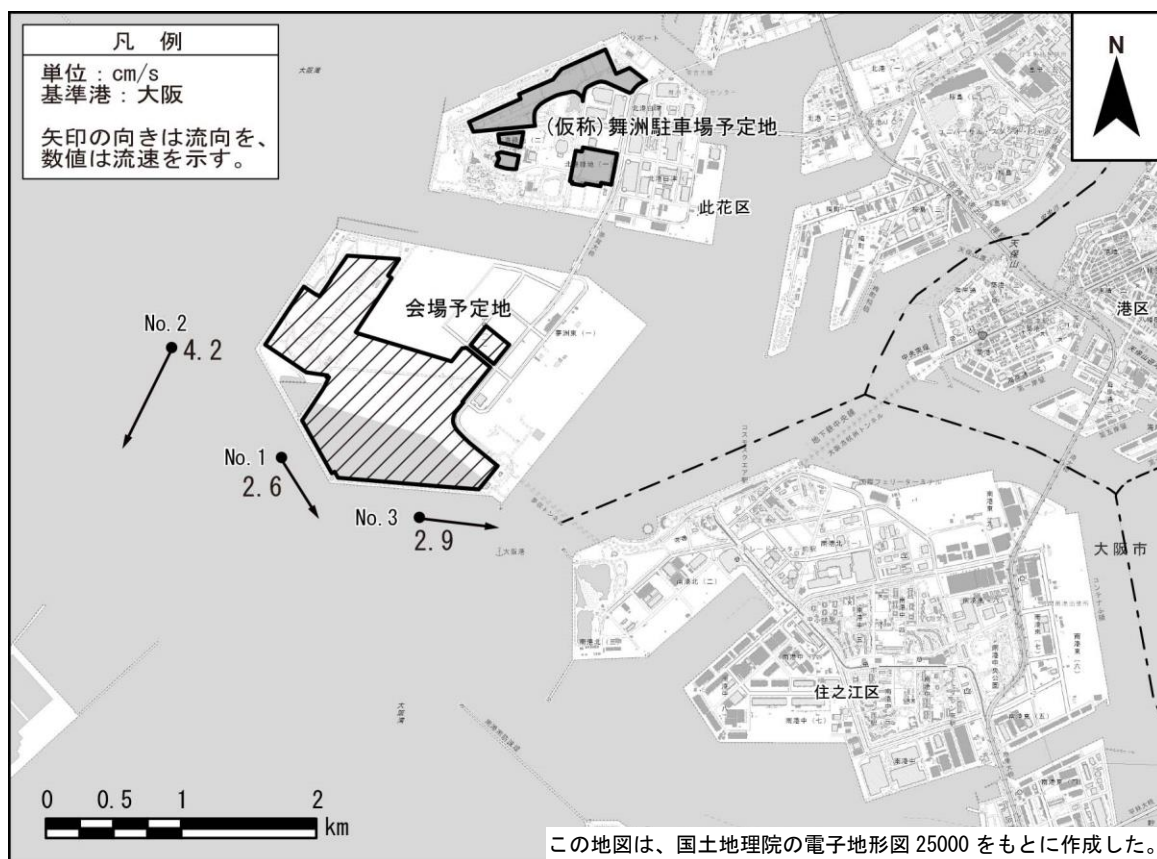


図 5.3.8 平均流（恒流）の分布（上：海面下 1m、下：海底上 2m）

5.3.2 建設・解体工事（土地の改変・解体）に伴う影響の予測・評価

1. 予測内容

工事の実施に伴い事業計画地から発生する排水の影響について、事業計画の内容、現地調査結果等を基に予測した。予測内容は表 5.3.5 に示すとおりである。

表 5.3.5 予測内容

予測項目	予測範囲・地点	予測時点	予測方法
工事の実施に伴い発生する 水質の影響 ・浮遊物質（SS） ・水素イオン濃度（pH）	事業計画地の周 辺海域	建設・解体工事中	事業計画の内容、現地調 査結果及び環境保全措置 を基に定性予測

2. 予測方法

事業計画、現地調査結果及び環境影響を低減するための環境保全措置を踏まえ、工事間中における浮遊物質（SS）及び水素イオン濃度（pH）への影響の程度を定性的に予測した。

3. 予測結果

工事中の生活排水を含む汚水は、回収を行い適正に処理する。

会場予定地内の工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SS の除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水は pH 調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。

（仮称）舞洲駐車場予定地の工事中の雨水及び排水は、計画地内に設けた沈砂池に導き、SS の除去及び pH 調整を行った後に下水放流する計画であり、海域への排出は行わない。

以上のことから、建設・解体工事中における事業計画地周辺海域の水質に及ぼす影響は小さいと予測される。

4. 評価

(1) 環境保全目標

水質についての環境保全目標は、「環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること」、「環境基本法に定められた環境基準の達成と維持に支障がないこと」、「水質汚濁防止法、瀬戸内海環境保全特別措置法、大阪府生活環境の保全等に関する条例に定められた排水基準等に適合すること」、「大阪市環境基本計画の目標、方針の達成と維持に支障がないこと」とし、本事業の実施が及ぼす影響について、予測結果を環境保全目標に照らして評価した。

(2) 評価結果

建設・解体工事中に発生する排水による周辺海域の水質への予測結果は、会場予定地及び（仮称）舞洲駐車場予定地において汚水の回収や沈砂池による適切な処理を行うことにより影響は小さいものと予測された。

建設・解体工事にあたっては、さらなる対策として以下に挙げる取組みを行っていく。

- ・ 工事中の生活排水を含む汚水は、回収を行い適正に処理する。
- ・ 著しい降雨時の土工は極力避け、濁水の発生を抑制する。

以上のことから、周辺環境への影響を最小限にとどめるよう環境保全について配慮する計画であり、環境保全目標を満足するものと評価する。